

【現行】西東京市教育計画（平成31年（2019）度から2023年度）

【次期】西東京市教育計画（令和6年度～10年度）

※現時点では今後検討していく部分については、現行計画の方向性の内容をそのまま記載しております。今後の議論を踏まえて内容を修正していく予定です。

【基本方針1】子どもの「生きる力」の育成に向けて

- 1 社会の変化に応える確かな学力の育成
- 2 豊かな心を育む教育の実現
- 3 子どもの健康づくりと体力づくりの推進
- 4 一人ひとりを大切にする教育の推進

【基本方針1】

- 1 社会の変化に応える確かな学力の育成
- 2 **豊かな心の育成**
- 3 子どもの健康づくりと体力づくりの推進
- 4 一人ひとりを大切にする教育の推進と**多様な教育ニーズへの対応**

（懇談会）障害の有無や家庭環境の差異などによらない一人ひとりの教育ニーズに合った教育を位置付けるため表現を追加

【基本方針2】子どもの「心の健康」の育成に向けて

- 1 相談・支援の充実
- 2 学校における教育支援体制の充実
- 3 学校を支える多様な教育資源の充実

【基本方針2】

- 1 相談・支援の充実
- 2 学校における教育支援体制の充実
- 3 学校を支える多様な教育資源の充実
- 4 **家庭における教育力の向上**

（懇談会）子どもの心の健康やウェルビーイング、子どもを取り巻く学校内外の関係機関や地域の支援体制などから方向を再編

【基本方針3】持続可能な社会の創り手を育むための教育環境の充実に向けて

- 1 時代の変化に対応した学習環境等の整備
- 2 学校経営改革の推進
- 3 学校を核とした地域づくりの推進
- 4 家庭における教育力の向上

【基本方針3】

- 1 時代の変化に対応した学習環境等の整備
- 2 学校経営改革の推進
- 3 学校を核とした地域づくりの推進
- 4 **教育DXの推進（新規）**

（懇談会）デジタルとリアルを両立や西東京市の先進性を伸ばす観点から方向を新設

【基本方針4】「学び」を身近に感じ「学び」を実践できる社会の実現に向けて

- 1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興
- 2 誰もが学習に参加できる機会の充実
- 3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用

【基本方針4】

- 1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興
- 2 誰もが学習に参加できる機会の充実
- 3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用
- 4 **学びを核とした地域づくりの推進（新規）**

（懇談会）学びを通じた地域づくりが重要であることから方向に新設

西東京市教育計画（令和6～10年度）の体系・骨子（案）

現・西東京市教育計画の体系・骨子 基本方針・方向	国・都の方向性	懇談会からの意見（要点）	アンケート・ヒアリング等から見てきた 西東京市の教育の実態	新・西東京市教育計画の体系・骨子（案）	
				基本方針	方向
<b>基本方針1</b> <b>子どもの「生きる力」の育成に向けて</b> 1 社会の変化に応える確かな学力の育成 2 豊かな心を育む教育の実現 3 子どもの健康づくりと体力づくりの推進 4 一人ひとりを大切に する教育の推進	<b>1 国の方向性</b> ○グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成 ・主体的に社会の形成に参画、持続的 社会の発展に寄与する人材の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」の視 点からの授業改善 ・留学等国際交流やリカレント教育  <b>2 東京都教育施策大綱の方向性</b> ○一人ひとりの個性や能力に合った 最適な学びの実現 ○Society5.0時代を切り拓くイノベ ーション人材の育成 ○世界に羽ばたくグローバル人材の 育成  <b>3 東京都教育ビジョンの方向性</b> ○全ての児童・生徒に確かな学力を 育む教育 ○社会の持続的な発展を牽引する力 を伸ばす教育 ○グローバルに活躍する人材を育成 する教育 ○豊かな心を育て、生命や人権を尊 重する態度を育む教育 ○健やかな身体を育て、健康で安全 に生活する力を育む教育 ○オリンピック・パラリンピックの 精神を学び、育む教育	<b>1 次世代を担う子どもの姿</b> ・創造的に生き抜いていく子ども ・キャリア・パスポートの活用 ・ <u>学校の中でも学校の外でも「主体性」を                      持つ子ども（第4回懇談会）</u>  <b>2 誰一人取り残さず、一人ひとりの可能                      性を引き出す</b> ・人が人としてより良く生きることができ る手ごたえ ・インクルーシブな社会（多様性） ・文理横断・文理融合教育の推進 ・答えのないものを考えて、結果を結びつ ける ・「マルチメディアエイジ」や「デジタ ル教科書」など、必要とする人が気兼ね なく自由に活用できる環境 ・経済格差などにより家庭内だけでは子 どもを上手く育てることが難しいことも ある。そういった子どもに学校内外から 支援する体制が必要 ・ <u>必要最低限の基本を「身につけてもらう、                      獲得してもらう」ことも義務教育の大切                      な部分（第4回懇談会）</u>  <b>3 リアルとデジタルの調和</b> ・教育の基本は人から学ぶ ・西東京市の教育の良さを再度見直し、リ アルとデジタルの調和を考える ・SNSで簡単に拡散されるデジタルの怖 さにも注目 ・ <u>「デジタルを使わされる」のではなく、「主                      体的にデジタルを使う」ことができるよ                      うな土台が大切（第4回懇談会）</u>	<b>視点1</b> <b>個の成長を支援し、未知の状況に対応できる資質・能力を育む教育が                      必要</b> ・学習内容がよくわからなかったり、できなかったときは、「自分の力 で調べたり、考えたりする」が高く、前回調査と比較して増加して いる。将来に向け、社会における様々な場面で主体的に判断し、他 者と協働して課題を解決していくことができる力を育てていくこと が必要。【アンケート（小）問17・（中）問18】 ・学校や先生に望むこととして、体験学習や行事への期待が高いこと から、探究的な学習や体験活動などを通じ、子どもたち同士、ある いは地域の方々をはじめ多様な他者と協働していくことが必要。【ア ンケート（小）問9・（中）問10・ヒアリング（児童センター）】 ・運動することについて、「好き」の割合が最も高いが、前回調査と比 較すると、減少している。子どもが、生涯にわたって知・徳・体 のバランスのとれた成長ができるよう健康の保持増進や体力づくりに 取り組む意欲の向上、運動習慣の定着を図ることが必要。【アンケー ト（小）問18・（中）問21・ヒアリング（学校運営協議会）】 ・自分のことが好きかについて、「好き+どちらかといえば好き」の割 合、自分に自信のもてることはあるかについて、「ある+どちらかと いえばあると思う」の割合、ともに半数以上と高い。前回調査と比 較して大きな変化がみられないが、生きる力や意欲の源となる自尊 感情・自己肯定感を高めていくことが必要。【アンケート（小）問 49・（中）問50】 ・YouTubeやLINEは小・中学生でも高い利用率【アンケート（小）問 26・（中）問29・ヒアリング（学校施設開放運営協議会）】 ・青少年調査では、西東京市の学校教育で子どもに教えることとして、 重要だと思うことについて、「思いやりの心や、善悪の判断など、道 徳心」の割合が最も高く、次いで「社会生活に必要な常識やマナー」、 「自ら学び、考え、主体的に行動する力」となっている。子どもの 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていくことに重点を おいていくことが必要。【アンケート（青）問31・（教）問7・ヒア リング（児童センター等）】 ・学習の仕方について、モニターやコンピューターを使って映像でわ かりやすくしてほしいという期待していることや、タブレットを使 った授業を受けて良かったこととして、自分の興味や関心のあるこ とを調べたり、学んだりする機会が増えたと回答していることから、 ICT機器や効果的なデジタル教材の導入とスムーズな活用を可能 とするネットワーク環境等を整備していくことが必要。【アンケート （小）問15・（中）問16】	<b>基本方針1</b> 1 社会の変化に応え る確かな学力の育 成 2 豊かな心の育成 3 子どもの健康づく りと体力づくりの 推進 4 一人ひとりを大切 にする教育の推進 と多様な教育ニー ズへの対応 などの方向性が考えら れます。	・誰一人取り残さず、一人 ひとりの可能性を引き 出す教育 ・インクルーシブな社会実 現のための教育 ・文理横断・文理融合、教 科横断型の教育 ・答えのないものを考え て、結果を結びつける力 を伸ばす教育 などが網羅・表現された 方針が考えられます。
<b>基本方針2</b> <b>子どもの「心の健康」の                      育成に向けて</b> 1 相談・支援の充実 2 学校における教育支 援体制の充実 3 学校を支える多様な 教育資源の充実	<b>1 国の方向性</b> ○誰一人取り残さず、全ての人の可 能性を引き出す共生社会の実現に 向けた教育の推進 ・子どもが抱える困難が多様化・複 雑化する中での多様な教育ニーズ への対応 ・支援を必要とする子どもの長所・ 強みに着目する視点の重視。多様 性、公平・公正、包摂性ある共生 社会の実現に向けた教育を推進  <b>2 東京都教育施策大綱の方向性</b> ○教育のインクルージョンの推進 ○子供たちの心身の健やかな成長に 向けたきめ細かいサポートの充実	<b>1 スクールカウンセラーをはじめとする                      学校の校内体制の強化</b> ・スクールカウンセラーに相談しやすい環 境 ・コーディネーターになっている教員やス クールカウンセラーが力を発揮でき るように組織的な対応をより強化する  <b>2 獲得的なウェルビーイングと協動的                      ウェルビーイング</b> ・ <u>獲得的なウェルビーイング（自分で主体的                      に責任をもって目標を達成したり、学び                      で知識が増えることなどの幸福感）と協                      動的ウェルビーイング（他者との協働の                      中で他者を尊重し、自分も尊重されるな                      ど幸福感）の両方を児童生徒や地域の人                      が感じる事が重要（第4回懇談会）</u>	<b>視点2</b> <b>子どもたちが幸せを感じ、誰一人取り残さない持続可能な社会を構築                      することが必要</b> ・学校の楽しさと友達との関係性は関連していることから、コミュニ ケーションスキルやソーシャルスキルを児童・生徒が身につけてい くことが必要。【アンケート（小）問4・（中）問4・ヒアリング（児 童センター等）】 ・いやなことやつらいことがあったとき、相談できる人がいるかにつ いて、おおむね「いる」と回答があるものの、「いない」の割合が1 割程度。特に学校を楽しくないと回答している子どももほど「いない」 の割合が高い。相談相手として「学校の先生」が前回調査と比較し て増加している。教員個人や学校のみでの対応が困難な事例に対 して、多角的な視点で一人ひとりの児童・生徒に適した支援すること が必要。【アンケート（小）問18・（中）問21・ヒアリング（PTA等）】 ・家でのお手伝いの現状や、家族と話すことはほとんどないと回答し ている子どもがごくわずかにいることから、特別な支援を必要とす る子どもが増加していることがうかがわれる。「ヤングケアラー」へ の支援や「子どもの貧困」への対応が求められている。【アンケー ト（小）問23・（中）問26・ヒアリング（子ども食堂・NIMIC）】	<b>基本方針2</b> 1 相談・支援の充実 2 学校における教育 支援体制の充実 3 学校を支える多様 な教育資源の充実 4 家庭における教育 力の向上 などの方向性が考えら れます。	・子どもの心の健康やウェ ルビーイング ・子どもを取り巻く学校内 外の関係機関や地域の 支援体制 などが網羅・表現された 方針が考えられます。

<p><b>基本方針 3</b></p> <p><b>持続可能な社会の創り手を育むための教育環境の充実に向けて</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 時代の変化に対応した学習環境等の整備</li> <li>2 学校経営改革の推進</li> <li>3 学校を核とした地域づくりの推進</li> <li>4 家庭における教育力の向上</li> </ol>	<p><b>1 国の方向性</b></p> <p>○教育デジタルトランスフォーメーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGA スクール構想、情報活用能力の育成、DX 人材の育成</li> <li>・教育データの分析・活用の推進</li> </ul> <p>○地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充</li> <li>・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進</li> <li>・家庭教育支援の充実による学校・家庭・地域の連携強化</li> </ul> <p><b>2 東京都教育施策大綱の方向性</b></p> <p>○子供たちの学びを支える教師力・学校力の強化</p> <p><b>3 東京都教育ビジョンの方向性</b></p> <p>○これからの教育を担う優れた教員の育成</p> <p>○教員の負担を軽減し、教育の質を向上させる「働き方改革」</p> <p>○質の高い教育を支える環境の整備</p> <p>○家庭、地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動</p>	<p><b>1 就学前機関との切れ目ない支援体制の充実</b></p> <p><b>2 学校の働き方改革</b></p> <p><u>・教員の働き方改革を推進し、目が届きにくい子ども達を一層支援する仕組みが必要（第4回懇談会）</u></p> <p><b>3 地域とともにある新しい学校の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人たちによる子どもへの関わり</li> <li>・地域内で直接人と人が触れ合う機会を設ける</li> <li>・学びでの繋がりが地域コミュニティを作る</li> </ul> <p><b>4 リアルとデジタルの調和</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症完治後の自宅待機期間などに利用できるような、柔軟なオンライン授業</li> </ul> <p><b>5 獲得的なウェルビーイングと協調的ウェルビーイング（再掲）</b></p> <p><u>・地域の大人が見守っていることが子ども気づかれていないように見える。地域の大人が子どもや地域に貢献することで協調的ウェルビーイングを得られるような仕組みがあればよい（第4回懇談会）。</u></p>	<p><b>視点 3</b></p> <p><b>Society5.0 で活躍する人材の育成に向けて、学校、地域、家庭で共に学び支え合う環境を整備していくことが必要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に通うときや学校から帰るとき（登下校時）に危険な思いをしたことは、1割程度ある。また、登下校の途中などに地震などの災害が起きたときに、どこに避難すればいいか「知らない」の割合が約2割ある。学校・家庭・地域が連携・協力して、子どもの見守り体制を構築することが必要。【アンケート（小）問8・（中）問20】・地域の大人が自分たちを見守ってくれていると、「感じる＋ときどき感じる」の割合が半数以上と高いが、近所の人とはあいさつをしたり、されたりすることはない割合がごくわずかいる。地域全体で子どもを育てる風土の醸成、地域の人々の交流の活性化を図ることが必要。【アンケート（小）問32・（中）問35・ヒアリング（学校運営協議会）】</li> <li>・一般調査では、身近な小学校・中学校の取組やそこを拠点として行われる地域の活動について、どのようなことなら、参加・協力してもよいと思うかについて、「特にない」の割合が最も高いが、次いで「学校の行事やイベント」、「児童・生徒の体験活動などにおける安全確保やサポート」の割合が高い。地域の多様な主体と学校のネットワークを構築し、「学校を核とした地域づくり」を推進していくことが必要。【アンケート（一般）問26・ヒアリング（学校運営協議会）】</li> <li>・一般調査では、地域に関心があるかについて、「どちらかと言えば関心がある」の割合が約4割と最も高いが、ふだん、地域の子もたちと接する機会については、「ない」の割合が約7割となっている。地域人材など、地域の多様な主体と連携・協力して、親子の育ちを応援することが必要。【アンケート（一般）問23】</li> </ul>	<p><b>基本方針 3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育環境</li> <li>・教育 DX</li> <li>・学校の働き方改革の一層の推進</li> <li>・教職員のウェルビーイング</li> <li>・コミュニティ・スクールなどを通じた学校を核とした地域づくりの推進</li> </ul> <p>などが網羅・表現された方針が考えられます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 時代の変化に対応した学習環境等の整備</li> <li>2 学校経営改革の推進</li> <li>3 学校を核とした地域づくりの推進</li> <li>4 教育DXの推進</li> </ol> <p>などの方向性が考えられます。</p>
<p><b>基本方針 4</b></p> <p><b>「学び」を身近に感じ「学び」を実践できる社会の実現に向けて</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興</li> <li>2 誰もが学習に参加できる機会の充実</li> <li>3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用</li> </ol>	<p><b>1 国の方向性</b></p> <p>○誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人生 100 年時代に複線化する生涯にわたって学び続ける学習者</li> </ul> <p>○地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習を通じた自己実現</li> </ul> <p><b>2 東京都教育施策大綱の方向性</b></p> <p><b>3 東京都教育ビジョンの方向性</b></p> <p>※生涯学習に関する明確な記載は特になし</p>	<p><b>1 リアルとデジタルを融合した社会教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西東京市にある豊かな学びの蓄積</li> <li>・リアルとデジタルの両輪</li> <li>・「市民の学び」をデジタルと融合</li> </ul> <p><b>2 誰もが学習に参加できる環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全市民を対象にした学びの場の保障</li> <li>・インクルーシブ教育を踏まえた社会教育、生涯教育</li> <li>・子どもたちが改めて西東京市の良さ、西東京らしさを再認識できるような具体的な取組</li> </ul> <p><b>3 関係機関との連携した社会教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習教育の視点からも学校を核に、子どもを中心にする政策を、公民館、図書館等の社会教育施設が一体となって進める</li> </ul>	<p><b>視点 4</b></p> <p><b>生涯を通じた学びによる豊かな人づくり・つながりづくり・まちづくりとともに、社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成が必要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年調査、一般調査ともに、生涯学習（学習活動）のイメージについて、「趣味や教養を高めること」が最も高く、次いで「生きがいを充実させること」、「生活を楽しみ、心を豊かにすること」の割合が高い。また、生涯学習の必要性について、「強く感じる＋どちらかといえば感じる」の割合が約9割と高い。誰もが社会に参画する機会を持つことができるよう学習機会の提供に努めていくことが必要。【アンケート（青）問11・（一般）問6】</li> <li>・青少年調査、一般調査ともに、今後、生涯学習の一環として、人々が学びたいときに学べるようにするために力をいれていくこととして、「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」の割合が最も高く、次いで「施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化」が高い。一方で、生涯学習を行うにあたって困る点は、「忙しくて時間がない」の割合が最も高い。だれもが生涯を通して学ぶことができる環境づくりを進めるため、オンラインを活用した講座やデジタル化された資料の活用などにより、時間や場所にとらわれない学びの推進していくことが必要。【アンケート（青）問14・（一般）問9】</li> <li>・一般調査では、生涯学習を行うにあたって困る点について前回調査と比較すると、「開催されている講座や、利用できる施設などがわからない」「身近なところに学習や活動の場がない」「どうやって活動すればいいかわからない」の割合が増加している。情報発信機能をさらに拡充するほか、ニーズの多様化、高度化に伴い利用者が求めている資料や情報をわかりやすく的確に提供するための取組が必要。【アンケート（青）問14・（一般）問9】</li> <li>・一般調査では、現在の西東京市の学習環境について、図書館が利用について評価が高い。市内の生涯学習施設が連携し、それぞれの利点を活かしつつ、市民の学習活動を支援していくことが必要。【アンケート（一般）問16】</li> <li>・リカレント教育について、青少年調査では「今後学習してみたい」の割合が約4割と高く、一般調査では「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が約4割と高い。より専門的な学びにつなげるための情報提供を行うなど、市民のキャリア形成に資する取組を進めていくことが必要。【アンケート（青）問18・（一般）問12】</li> </ul>	<p><b>基本方針 4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを通じた地域づくり</li> <li>・一人一人の教育的ニーズに合った生涯学習</li> <li>・公民館機能の充実</li> <li>・図書館機能の充実</li> </ul> <p>などが網羅・表現された方針が考えられます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興</li> <li>2 誰もが学習に参加できる機会の充実</li> <li>3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用</li> <li>4 学びを核とした地域づくりの推進</li> </ol> <p>などの方向性が考えられます。</p>